（様式１）

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　FY2026

２０２６年度　名古屋大学若手育成プログラム

--------- ＹＬＣ (Young Leaders Cultivation) ------

申　　請　　書

**（原則、１０ポイント以上の文字を使用し記入すること。ただし、様式の改変は認めない。）**

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 区分 （人社系・理工系・生命系より１つを選択すること。ただし、境界領域の研究分野の場合は２つまで選択可。）  　　□人社系 □理工系 □生命系　　　　　　　　　　 （境界領域の場合）　　□人社系 □理工系 □生命系 | | | | |
| 応募者の専門分野\* （科研費の中区分あるいは小区分より１つ記載すること。） | | | | |
| 応募者の研究キーワード（任意。ただし、５件以内。） | | | | |
| 注意：\*の項目については、日本学術振興会（JSPS）が指定しているものを参考にそのまま記載すること。これらの項目情報が記載されたJSPSの資料は次のURLからダウンロードすること。URL: https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/03\_keikaku/data/r05/R5\_shinsakubunhyo\_all.pdf | | | | |
| 1. 応募者氏名 （フリガナ） | | | | |
| 2. 研究提案課題名 | | | | |
| 3. 生年月日と２０２６年４月１日時点の年齢  （西暦）　　　　年　　　月 　　日 　　　年齢： | | 4. 国籍 | | |
| 5. 現在の身分および所属（職名、所属機関・部局・専攻等） | | | | |
| 6. 学位の名称とその取得時期　※根拠書類として、学位記のコピーを添付すること。 | | | | |
| 学位：　博士　（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　） | □ 本学  □ 本学以外 | | （西暦）　　　　　年　　　月　　　日 | □ 取得  □ 取得見込 |
| 7. 学歴（高校卒業時から昇順で） | | | | |
|  | | | | |
| 8. 職歴（最も古いものから昇順で） | | | | |
|  | | | | |
| 9.（1）名古屋大学における受入教員の氏名、部局・専攻等、職位  （2）着任後の兼務先（受入教員の現在の所属部局と異なる予定である場合は、明記すること。） | | | | |

|  |
| --- |
| 10. 研究提案課題の背景となる学術領域の説明  提案課題の重要性や現在の課題について、０．５頁以内で異なる領域の研究者にも理解できるよう、平易な表現で記載すること。 |
|  |

|  |
| --- |
| 11．現在までの研究成果と10.で説明した学術領域における位置づけ  （1）これまでの研究成果　　（2）研究の特色・独創的な点　　（3）当該学術領域における研究成果の位置づけや意義、社会的インパクトについて、図表などを活用し、１．５頁以内で異なる領域の研究者にも理解できるよう、平易な表現で記載すること。 |
|  |

|  |
| --- |
| 11．現在までの研究成果と10.で説明した学術領域における位置づけ （続き） |
|  |

|  |
| --- |
| 12. これからの研究計画など　図表などを活用し、２頁以内で異なる領域の研究者にも理解できるよう、平易な表現で記載すること。  (1) 研究の背景・目的　本研究計画を立案した経緯について、必要があれば参考文献を挙げて記載。  (2) 研究計画  　① 研究計画全体について、概説したのち各年度の研究計画を記載。  　② 研究計画の期間中に異なる研究機関（国外の研究機関等を含む）において、研究に従事することを予定している場合はその旨を記載。  (3)　研究計画の特色・独創的な点  (4) 波及効果 何を、どこまで明らかにしようとするのか、また、それによる波及効果について記載。 |
|  |

|  |
| --- |
| 12. これからの研究計画など （続き） |
|  |

|  |
| --- |
| 13. 研究業績  (1)～(6)の項目について、２頁以内で応募者が中心的な役割を果たしたもののみ記載し、該当がない項目は「なし」とすること。また、通し番号と応募者にはアンダーラインを付けること。  (1)学術雑誌等（紀要・論文集等も含む）に発表した論文、著書（査読の有無を区分して記載。査読中・投稿中のものはその旨記載。）  　① 著者、題名、掲載誌名、発行所、巻号、pp開始頁－最終頁、発行年を記載。  　② 採録決定済のものについては、それを証明できるものを添付。  (2)学術雑誌等又は商業誌における解説、総説  (3)国際会議における発表（口頭・ポスターの別、査読の有無を区分して記載。）  　著者、題名、発表した国際会議名、場所、月・年を記載。なお、発表者に○印を付けること。  (4)国内学会・シンポジウム等における発表　(3)と同様に記載。  (5)特許等　出願中、公開中、取得を明記。ただし、出願中のもので詳細を記載できない場合は概要のみで可。  (6)その他　受賞歴等 |
|  |

|  |
| --- |
| 13. 研究業績 （続き） |
|  |

|  |
| --- |
| 14．ＹＬＣ教員としての抱負  ０．５頁以内でＹＬＣ教員の使命と関連付けながら、さらに、海外での活動を視野に入れて、本学での経験を将来のキャリア・パスとどのようにつなげたいかについても記載すること。 |
|  |

|  |  |
| --- | --- |
| 15. 応募者の大学院博士課程・博士後期課程在学時の活動に関する情報 | |
| 博士論文のタイトル | 博士論文の指導教員名と審査大学・部局・専攻等 |
|  |  |

|  |
| --- |
| 16．在外研究活動  在外研究経験（国外から日本への留学も含む）について、研究内容・期間等を記載。加えて、これからの在外研究計画についても具体的に記載。なお、特に在外研究が必要ではないと考えられる分野の応募者は、その理由について記載すること　※高等研究院は、在外研究を奨励 |
|  |

|  |
| --- |
| 17. その他　（例：ライフイベント等による研究中断など） |
|  |